

平成29年度第1回石巻地域産業人材育成プラットフォーム会議 議事録

日 時：平成29年10月6日（金）

午後2時～3時30分

場 所：宮城県石巻合同庁舎 5階大会議室

○ 開会挨拶（宮城県東部地方振興事務所 加藤所長）

- ・ 地域の産業振興・震災復興への多大なる御協力に感謝申し上げます。皆様のお力添えもあり、道路・港湾・漁港等の産業基盤の復旧・復興の取組が目に見えて進んできた。
- ・ しかし、産業現場からは震災復興が進むにつれて「求人票への反応が鈍くなった」「せっかく工場が復興するのに働く人が集まらない」などの声が聞かれる。このため当会議では昨年度、単なる人材育成に留まることなく、地元で育てた人材を地元で雇用し定着させる取組を強化することとしたところ。
- ・ 本日は各機関からそれぞれの取組を紹介いただき、地域の雇用情勢とともに共有し、今後の取組充実に向け意見交換を行いたい。本日の会議への皆様の積極的な参加により、次代を担う一人でも多くの人材の地元雇用・定着が進み、地域産業の速やかな再生と将来に渡る振興につながるよう祈る。

報 告

（1）石巻地域の雇用情勢について（石巻公共職業安定所）

- ・ 石巻地域の有効求人倍率は平成24年8月以降、1倍超を維持し、高水準が続いている。直近の平成29年8月の有効求人倍率は1.78倍。県内ハローワークで2位。（1位：大和，3位：気仙沼）
- ・ 近年の有効求人倍率の推移について。例年、秋口から冬にかけて、次年度を見越した求人が寄せられるため、有効求人倍率は上昇する傾向がある。直近のピークは平成28年12月の2.24倍。
- ・ 業種別の求人・求職バランスについて。建設を含む「専門・技術」、医療福祉を含む「サービス」、水産加工を含む「生産工程」において人材不足が顕著。逆に、事務職は求職が求人の2倍以上。
- ・ こうした人手不足の状況に対し、ハローワークでは、求職者への個別案内や、作業風景写真を求人情報に掲載して作業内容を分かりやすくする工夫を行ったり、職場見学会や面接会等の取組を実施。
- ・ また、在職者の離職防止も重要と考え、労働局等と連携して働き方改革の機運推進のPRも。

（2）「石巻地域産業人材育成プラットフォーム」の平成29年度の取組実績と今後の取組予定について（事務局：宮城県東部地方振興事務所）

「石巻地域産業人材育成プラットフォーム」の取組の4本の柱立てに沿って報告。

① 人材育成・雇用・定着に関する情報共有と取組の充実

- ・ 会議を通じ、各機関の取組を共有し、取組充実を図るもの。本日が今年度第1回目の部会、10月6日に今年度第1回目の親会議を開催。
- ・ 今後の予定：来年1月に第2回目の部会、来年2～3月に第2回目の親会議を開催予定。

② 地域一体となった職業体験等、産業人材育成の取組の推進

イ 協力企業・団体等と学校のマッチング推進

- ・ 地元企業・団体等における職場体験学習の受入体制等を掲載した冊子「産業人材育成・

定着協働者ガイド」(事務局作成)により、職場体験学習を希望する高校・大学と受入企業等の円滑なマッチングを支援する取組。同ガイドの掲載事業所を108事業所(平成29年3月末現在)から123事業所(同9月末現在)まで拡充。また、6月～9月にかけて、延べ4校に同ガイド掲載事業所等から社会人講師を派遣。

- ・ 今後の予定：同ガイド掲載事業所を更に拡充(140事業所目標)し、事業所と学校のマッチングを今後も推進。
- ロ インターンシップ活動の充実
 - ・ 「石巻地域版インターンシップに関するガイドライン」に基づくインターンシップ活動を促進。(事業所・学校が事前にインターンシップについて計画を立て、体験内容等を協議して実施、事後に成果報告会を実施し活動の充実を図るもの。)
 - ・ また、同ガイドラインに基づきインターンシップを実施した高校の実例や、宮城県東部地方振興事務所で高校生と大学生のインターンシップを受け入れた実例を紹介。
 - ・ 今後の予定：紹介事例以外の高校等への石巻地域版インターンシップ活動の実施呼びかけや、「ガイド」掲載事業所で受入を実施していない事業所への今後の受入を呼びかけ。

③ 企業と生徒・学生が接する場の提供等、地元就職の促進

- イ 宮城労働局・石巻公共職業安定所・宮城県主催の合同企業説明会等の開催
 - ・ 地域の生徒・学生が、地元の企業を知る機会を設け、地元企業就職に向けた理解醸成を図るため、「高校生のための合同企業説明会」(7月11日)や、「新規高等学校卒業予定者就職面接会」(10月18日)に開催協力。
- ロ 「人材確保・育成・定着セミナー」開催
 - ・ 昨年度に引き続き、地元事業所を対象に、人材の採用・育成・定着の有効な手法を学ぶセミナーを開催。来年2月予定。
- ハ 小中学生の産業学習旅行「しごと発見ツアー」
 - ・ 地域の児童・生徒が、地域の産業現場を訪問し理解を深めることで、地域の将来を担う人材の育成につなげるため、東松島市(8月8日)、女川町(8月10日)で小中学生の「しごと発見ツアー」を開催。地元企業・施設の見学、作業体験等。
 - ・ 今後の予定：石巻市でも小中学生の「しごと発見ツアー」開催予定(11月)。石巻専修大学、商工会議所・商工会、各市町の協力を得ながら、地域の児童・生徒が地域の産業を学ぶための「産業学習マップ」及び「産業学習ハンドブック」を作成予定。(平成30年2月完成目途)

④ 就職後の地元定着応援

- イ 高校生対象「声出し・話し方」セミナー開催
 - ・ 初歩的なあいさつを含めたコミュニケーション能力の向上により、就職後の職場定着を促進するもの。7月に1校で開催。
 - ・ 今後の予定：年度内にもう1校で開催予定。
- ロ 「新入社員・職員研修会」開催
 - ・ 地域の事業所の従業員の地元定着を支援するため、商工会議所・商工会と共催し、研修の自主開催が困難な事業所等を対象に新入社員・職員研修会を開催。(6月27日開催。30事業所・48人参加)
 - ・ 今後の予定：来年度も継続開催の予定。

(座長：宮城県東部地方振興事務所 加藤所長)

- ・ 高校への社会人講師派遣については、商工会議所・商工会の会員事業所に御協力いただき感謝申し上げます。
- ・ 小中学生対象の「しごと発見ツアー」でも、商工会議所・商工会に御協力いただいた。また、今後予定している「産業学習マップ」及び「産業学習ハンドブック」の作成は、石巻専修大学との共同事業。当事務所職員と石巻専修大学の学生が共同で作成することとしているが、専修大学

の学生にも当事業を通じて地元の産業を知ってもらい、できれば地元就職していただきたい。皆様の御協力をよろしくお願いしたい。

(3) 各機関の平成29年度の実績と今後の取組予定について

① 石巻公共職業安定所

- ・平成28年度の高校生就職状況について。求職者486人。うち管内希望者は約6割の296人。最終的な就職内定率は99.8%で、近年でも高い数値。求人数は888人。産業別の受理状況は、多い順に製造業274人(うち食料品製造業139人)、建設業180人、医療・福祉159人、卸売・小売98人。
- ・平成29年度の高校生就職状況(平成29年8月末現在)について。内定率公表開始は9月からだが、求職者数は昨年より若干増の505人。うち管内希望は6割強。高校卒業生は1,600人以上となるが、6割以上が進学希望。ハローワークを通じての就職希望は3割程度。求人状況は、受付が早まったこともあり出だし好調。産業別求人受理状況は昨年度と同様の傾向。
- ・今年度の高卒者支援実績及び計画について。5月18日に新規高卒者対象求人申込説明会を二十数年ぶりに開催、103社参加。7月11日には合同企業説明会・企業と高等学校教諭の就職懇談会開催。昨年度より参加枠を12社増やし、67社参加、高校生は昨年度から倍増の407人参加。アンケート結果も概ね好評、来年度も同様に開催したい。
- ・今後は10月18日に新規高卒者合同就職面接会を開催予定。昨年度より1社多い52社参加予定。内定が出ている時期のため高校生参加人数は読めないが、昨年度は40人参加。内定を得ていない生徒には是非参加して欲しい。
- ・1月以降はと未内定の高校生への支援。一般求人にも応募できるため、一刻も早い内定獲得に向け支援していく。

② 石巻専修大学

- ・平成29年度の進路状況(平成29年9月末現在)について。平成30年3月の卒業予定者295人に対し、進学希望者6人、就職希望者246人(うち民間希望者220人、教員15人、公務員11人)。このうち内々定確保者は176人(71.5%)。民間希望者に対する内々定率は79.5%。昨年度同時期は66.0%だったので、13ポイント以上上昇。実際に数字が増えていること、企業の動きが早まっていることが要因。
- ・県内への就職状況は、最近では46~47%と高い数値。今年3月卒業生の特徴として、文系では県内就職率が高いが理系では低い。人間学部の第一期生が卒業したことも影響した可能性。
- ・平成30年3月卒業予定者の内々定状況では県外への就職が例年よりも多い。学生の目が県外に向いているのか、県外の大企業が手を伸ばしてきているのか。
- ・学生への就職支援の取組について。2年次ではキャリアデザイン等の授業。3年次では就職活動に向けた各種ガイダンス。これを受講した学生は就職が決まるのが早い。学内での取組のほか、家庭にも就職への意識づけを依頼。
- ・今年度新規開講講座「いしのまき学」について。全学部全学科1年生共通の必修科目。地域の内外から目標を持って集まった学資絵に、石巻地域の課題や魅力を実感してもらうことを目的に開始。
- ・企業代表者等、石巻地域で実際に活躍されている方のお話を伺ったり、実際に街を歩いたりして、地域の文化や魅力を学ぶ。川開き祭りへの参加も推奨。祭りの開かれる2日間は「地域貢献日」として休講し、各行事に参加(出席をとる場合も)。最後はゴミ拾いを行い、しっかり後片付けまで行う。

③ 石巻管内高等学校卒業生就職対策連絡会議

- ・インターンシップ・職場体験等において、管内高等学校が商工会議所・商工会に御協力いただいていることに感謝申し上げます。
- ・石巻地域の高校生の就職・進学の状況について。例年、卒業生の30%前後、500名程

- 度が就職。高校によって差があるが、普通科の生徒数が圧倒的に多いこともあり地域全体ではこの数字。石巻地域への就職者については、震災前（平成22年3月卒）は卒業生に占める割合が16.4%であったのに対し、震災後は20%前後で推移。地元志向が強まっている傾向。例えば、石巻市立桜坂高校では就職者の約9割が地元希望。
- ・ 石巻地域への就職者数を就職先の業種別に見ると、震災後は製造業の割合が減少傾向にあり、非製造業が増加傾向。製造業の中でも水産加工品製造業は震災後若干の減少傾向、木材・製紙製造業は増加傾向。非製造業では建設業が大幅に増加。
 - ・ 石巻地域の高等学校におけるキャリア教育・職業教育の取組について。普通高校では、進学を第一にしながらも、その先の就職に向け、OB講話等により職業観を醸成。
 - ・ 専門高校においては、多くの高校で1年次に働くことの意義を学び、2年次からは専門性を活かして職業観・就業意識を醸成。3年次には就職に向け、面接対策やマナー講習等を実施。例えば、宮城県水産高校では石巻魚市場 須能社長の協力を得て面接指導等。
 - ・ 今年度の内定状況について。いくつかの高校から今年は就職内定が早いと聞いている。例えば、石巻工業高校は9割近く、宮城県水産高校は5～6割、石巻市立桜坂高校では35%程度が内定獲得済み。今後も合同企業説明会・面接会等への積極的な参加を促すなど就職希望者を支援していきたい。
 - ・ 宮城県水産高校における就職状況の変化の例。200海里以降、地元水産業や国内漁船への就職状況は低調であったが、近年は地元水産加工業や乗船希望者も増え、漁船・商船から求人票が届くようになったこともあり（以前は電話連絡のみだった）、スムーズな就職につながっている。
 - ・ 当プラットフォームの取組を通して、高校のキャリア教育の現場に地元企業・団体の皆様が数多く参画していただけることを期待したい。

④ 宮城県東部教育事務所

- ・ 小中学校の取組について。今年度、石巻市立山下中学校を中心として、石巻市立貞山小学校、石巻工業高校・石巻市立桜坂高校と連携推進の授業に取り組んでいる。そういった中で、小中学校で具体的にどのような形で将来の職業観育成につながる取組をしているか。
- ・ 本県の小中学校では、「(人と) かかわる」「(よりよい生き方を) 求める」「(社会での役割を) はたす」を主眼に、学校だけでなく、家庭・地域社会が連携して取り組んでいる。
- ・ 小学校段階の取組で進めているのは、異校種間連携。より年上の生徒から様々な教えを受けて学習する。
- ・ 中学校段階の取組。小学生より一歩進んで、将来を見据えた「進路指導」の取組として、上級学校訪問。様々な分野の高校・専門学校・大学を訪問する。また、多くの中学校において、職場体験を1～3日程度実施。地元事業所を訪問し取り組んでいる。
- ・ 各市町の特徴的な取組。石巻市では、「協働教育推進事業」として、市内9小中学校が指定を受け、地域と協働して学習。東松島市では、各市民センターを核とした学校教育支援や、「ふるさと教室」として農業・漁業体験など。女川町では、「潮（うしお）活動」を20年以上継続。地元の産業現場訪問等により講話・作業体験を実施し、文化祭で成果発表。
- ・ 課題として、受入先との調整や、新規行事を行う際の位置づけ、児童・生徒・青年層の意識付け・支援の在り方など。
- ・ 「みやぎ教育応援団」について。小中学校の教育支援に協力いただける事業所に登録していただいている。今後も声がけしていくのでよろしくお願ひしたい。

⑤ 石巻信用金庫

- ・ 金融機関の立場から、人材の雇用・定着の前提となる産業振興のための人材育成・経営者教育・ネットワーク構築や、石巻専修大学への研究費贈呈・経営課題研究依頼、小学生の金融教育等の取組を実施。
- ・ 企業家の支援・育成事業「いしのまきイノベーション企業家塾」。平成26年度開講、今年で4年目。昨年度までに70名の卒業生を輩出。今年度からは新たに東松島市・女川町も共催となり、塾生は過去最多の29名。通算の受講生は101名となった。6月から11

月まで計13回開催。3月を目処に4年間の卒塾生を一堂に集める卒塾生交流会を企画。塾生や卒塾生の実支援も強化し、来期も継続開催の予定。

- ・取引先の若手経営者の育成と交流を図る「石巻しんきん経営塾」。平成19年創設。現在の塾生は51名。講演会、勉強会、企業視察等、意欲的に活動。
- ・石巻専修大学との連携事業「ISプロジェクト」。平成7年から若手研究者支援としてIS奨学金を贈呈。大学と連携して企業の悩み相談に応じる「産学金連携窓口」の設置等の取組を実施。
- ・主に小学生対象の金融教育・社会見学を実施する「しんきんマネースクール」。7月に赤井市民センターで実施、12月には中里小学校で実施予定。来年度は、現在蛇田地区に建築中の総合相談センターを活用した事業を企画。内容を少し変更し、マネーの勉強のほか、自分たちの郷土を知り、郷土に愛着を持つような企画としたい。

⑥ 宮城県立石巻高等技術専門校

- ・施設内及び施設外で訓練を実施。施設内では主なものづくり系の職人を育成。自動車整備科・金属加工科・木工科は高校新卒者対象。自動車整備科については定員を満たしているが、金属加工科・木工科は入校率50%前後と低下している。就職率は100%。
- ・溶接科・配管科については、離転職者対象。応募者が少なく、就職も年齢が高くなるにつれスムーズにいなくなる傾向。
- ・人手不足の事業所が多い当地域において、基本技能を習得している本校修了生は有用。そのためにも入校率の低い訓練科の学生募集に努めていきたい。
- ・施設外では民間教育訓練機関に委託し、パソコン・簿記・医療事務・介護等13コースを計画。震災直後は入校率が高かったが、最近は応募者が少なく中止になるコースも。入校生の8割方は女性。20～50歳代。就職率は70～80%。パート・アルバイトが多い。
- ・平成22年卒～平成25年卒の3年定着率は60.3%。更に向上するよう校内指導に努めたい。
- ・石巻北高飯野川校の体験学習の支援も実施。また、子どもたちへの技能の振興策として東北大学で行われる「サイエンス・デイ」に例年出展、主に小学生に技能に興味を持ってもらう取組。様々な機会を捉えて本校のPRと若い人材への技能の振興に努めていきたい。

意見交換

(石巻商工会議所 須能副会頭)

- ・小中学校の成績で進学先の高校が決まってしまう現状がある。その結果、学力によって職業選択を狭められることにならないよう、小中学校の時から「世の中にはこういう職業がある」ということを知らしめる取組が重要だと訴えてきた。
- ・高校ではインターンシップを実施しているが、本人の希望に沿った事業所に行かせることが効果的。小中学校の成績が悪いから今の高校に入ったという諦めの気持ちを持っている生徒もいるが、「こういうことがしたい」という夢を与えるために、小中学校の頃からいろいろなところを見学に行かせて欲しい。
- ・取組を行うとき、現場の教師は「できない理由」や課題に目が行きがちだが、震災後の思いを考えれば何でもできるのではないかと。石巻地域の子どもを地元に着させるといった覚悟を持って、子どもたちのために思って取組を進めるのであれば、我々産業界も協力する。
- ・地域を疲弊させないために、教育が大切だと認識した上で、こういった場でお互いの役割分担を確認しながら取り組んでいくことが重要。それぞれの立場だけで困難だと言わず、関係者の知恵を借りながら方法を探していただきたい。

(石巻商工会議所 浅野会頭)

- ・少子高齢化が進み、震災で更に人口が減っている。とにかく石巻地域の子どもたちに地元就職してもらい、地域を盛り上げていかなければならない。本日の議論を聞いていて、小中学校の

段階から地域の産業の意識付けを行う必要性を改めて感じたが、総論は言えるが具体的な取組となると限られているのが現状。

- ・ その点、みやぎ教育応援団という制度があることを本日初めて知った。こういったものを会員にPRして、産学官共同で応援していく姿勢を早急にとりたい。関係者には様々に努力していただいているので、我々産業界もボールを投げ返さなければならない。

(東松島市商工会 橋本会長)

- ・ 小中学校の取組は是非進めていただきたいが、もっと言えば幼稚園からの取組があっても良いのではないかと。ディスカバリーセンターを訪問する幼稚園児は目の色が違う。もう少し野性的な考えで物事を進めていただけるとありがたい。
- ・ 東松島市は、意外と企業が少ない。商工会で、創業・起業意識を高める様々なセミナーを開催しているが、市の方でも実際に創業した事業者への支援を進めて欲しい。

(女川町商工会 高橋会長)

- ・ 一番良いのは、小中学校の段階で、地域の事業所・店舗に行って勉強・経験すること。地元の産業を実践で見てみると、将来、ふるさとにUターンするとき等に役立つのではないかと。
- ・ 小学生は4～5年生の社会科見学で、中学生は受験で忙しくなる前に、地域に根ざした事業所を実際に見てみるのが、将来地域に定着するのに効果的である。

(石巻専修大学 尾池学長)

- ・ これまで議論されたようなことを、本学で開始した「いしのまき学」において、地域の産業界の皆様実践していただいているように感じる。ただ、小さい頃からの刷り込みが大事なので、なるべく早く体験してもらうことが重要。
- ・ 本学でも、学科によっては1年生の時から事業所・工場等の現場を見せていただき、自分で課題を見つけさせている。それが、学生の目的や夢を方向づける。

(石巻商工会議所 浅野会頭)

- ・ 地元でどのような企業があるか知らないだけで、立派な会社はたくさんある。また、都会より低い給与水準でも石巻の方が良い暮らしができる場合もあると思う。そういったことを小さい頃からPRする必要がある。
- ・ そのため、我々産業界が職場を開放することも必要。児童生徒の目を直に地元企業に向けさせる方法を徹底的にやる必要がある。

(座長)

- ・ 小中学校も高校も様々な取組を行っている。また、当事務所も、「しごと発見ツアー」の実施のほか、「産業学習マップ」の作成、つまり小中学生等が体験学習に行ける事業所をマップに掲載し、地元の小中学生や仙台・東京の子どもにも来てもらって、こちらを向いてもらうということを考えている。いろいろな取組があっても良いのだと改めて感じた次第。
- ・ どこかの機関がまとめて取り組むのではなく、いろいろな機関でいろいろな取組をしていくことが重要。市町も含め、地域一体で取組を進めていきたい。そのための会議の場。次回は来年度の取組を議論。取組を更に厚くしていきたい。

○ 閉会挨拶 (石巻商工会議所 浅野会頭)

- ・ 本日はいろいろな立場の機関が集まってプラットフォーム会議を開催。お互いの取組を知り、それぞれが自分の出来ることをする。一足飛びにはいかないが、ステップバイステップで進めていきたい。
- ・ 是非この会議を充実させて、石巻地域の子どもたちのため、地域一体で、我々企業も頑張っていかなければならない。本日はありがとうございました。